

第26回日本死の臨床研究会北海道支部年次大会

2014年度

春の研究会

第1部 一般演題 13:40-14:40

座長：中谷玲二（洞爺温泉病院）/川村三希子（札幌市立大学）

①家族ケアとしてセカンドオピニオンが有効であった症例

舟越 功（勤医協中央病院）

②最後まで食べる為の栄養士としての関わり～人工的水分・栄養補給法（AHN）の選択と食事の工夫～

上杉梨沙（洞爺温泉病院）

③「口から食べる」ことへの関わりから生活の質を考える

高田誓子（洞爺温泉病院）

④緩和ケア治療を受けた患者と看護師の人間関係形成のプロセス

—トラベルビーの看護理論を用いて振り返る—

渡 加菜（市立札幌病院）

第2部 事例検討 14:50-15:50

座長：小林良裕（勤医協中央病院）/小島悦子（天使大学）

「在宅死を希望していたが、ホスピスで最期を迎えた一例」

今井貴史（札幌南青洲病院）

第3部 特別講演 16:00-17:00

座長：合田由紀子（市立札幌病院）

「楽しい最期を迎えるために—どうことを運ぶ?—」

武藏 学（天使大学 看護栄養学部栄養学科 教授）

学長

- ・最期は自宅、ホスピス、病院？
- ・食べられなくなったらどうするのか？
- ・疼痛緩和は？
- ・医療と介護の移行はどうすれば？



日時

2014年 4/19(土)

13:30～（13:00 開場）

場所

藤女子大学 北16条キャンパス
755・756 教室

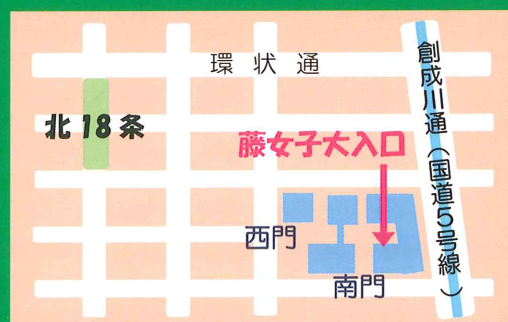
札幌市北区北16条西2丁目

（地下鉄南北線「北18条」駅から徒歩5分）

★駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

参加費 1,000 円

北海道支部会員は無料



◆お問い合わせ先◆

日本死の臨床研究会北海道支部 事務局
〒004-0801 札幌市青田区野家1条4丁目10-16
ホームケアクリニック札幌 担当：提督（さげはし）

TEL

867-6770